令和4年度 学校自己評価システムシート ( さいたま市立 桜山 中学校 ) 目 指 す 学 校 像 │○生き生きと学ぶ学校 ○豊かな心を育む学校 ○安全で安心な学校 ○地域とともに歩む学校

重 点 目 標

1 基礎的・基本的な内容の徹底を図る学習指導の実践 5 開かれた学校づくりの推進

2 豊かな感性や人間性を育む教育の推進

- 6 信頼される学校づくりの推進
- 3 組織的な生徒指導、教育相談の充実 7 キャリア教育の推進
- 4 生徒一人ひとりに応じた健康・安全指導の徹底 8 持続可能な開発のための教育の推進(SDGs 17の目標)

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、 方策の評価指標」を設定。

学校番号 254

達	Α	ほぼ達成	(8割以上)
成	В	概ね達成	(6割以上).
度	U	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

			学	校	自己	評	価			学校運営協議会による評価	
	年	度	目	標			年 度	評	価	実施日 令和5年2月13日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的	的方策	方策の評価指標	評価項目の	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
	「現状」 ・各アンケート結果から家庭学習が習慣化しておらず、基礎的・基本的な事項が定着していない生徒が多い。 ・学習意欲に課題がある生徒が多く、自ら課題を発見、解決しようとする様子が少ない。 ・日本語を母国語としない生徒が多く、課題を理解できない生徒がいる。	家庭学習時間	ことにより具体的 を図る。 ・保護者会・学校だ	行い、毎日点検する 的な学習時間の確保 より、学年だより等 の学習環境の整備を	・1 P学習ノートの提出率が昨年度比、 全学年で10%向上させる。 ・学期に2回以上、啓発記事の掲載。』 び保護者会での講話を行う。	保は徐々に達成してきて ●生徒アンケートによる「 でいる」の項目では 94% り、目標値を達成してい ●学校だよりでは「学習」	(人されたスタディサブリと家庭での学習時間の確いる。 「授業に積極的に取り組んんの生徒が肯定的評価である。 についての内容を2回掲 にでいての内容を2回掲	В	●学習方法や適切な課題設定の方法等の啓発により成果としての学力向上を目指す。 ●ICT を活用した「個別最適な学び」を推進する。	○基礎学力の向上のために1P 学習ノートなどの活動はよい 取り組みだと思う。さらに、 小学校と中学校が連携して学 習習慣の確立を図れるとよい のではないか。 ○家庭学習において保護者とし て、自分の子どもたちをとし	
1	「課題」 ・家庭学習時間の確保・増加 ・基礎的・基本的事項の定着 ・日本語指導の充実 ・学習に対する	基礎的・基本的 事項の定着 学習に対する達 成感・成就感 の経験	意欲、達成感・成 図る。 ・放課後学習会を設 する。 ・日本語指導におい けでなく、入り込 日本語への苦手意	ストを実施し、学習 就感の経験の向上を 定し学習機会を提供 で、取り出し授業だ み授業を充実させ、 識の払しょく、問題 。(対象生徒へのア	・キャリアアップテスト3級合格909以上。1級合格60%以上 ・放課後学習会を年間延べ30回以上記定する。 ・生徒アンケートにおいて「授業に積 的に取り組んでいる」の項目を向上させる(昨年度93%)。 ・対象生徒へのアンケートにおいて苦ま意識の減少、理解度を向上させる。	し、3回目の時点で3級 59%であった。(3学期 放課後学習会についても 施している。 ●対象生徒へのアンケート 取り出し授業をはじめ、 できた。	合格率 84%、1 級合格率 に 1 回実施予定)また、 、2 学期末時点で 30 回実	В	●学校課題研修として基礎学力の向上、基礎的基本的な内容の定着を柱とした校内研修に取り組み、全職員が授業公開、研究協議会を行い、授業力向上を図るとともに「わかる」「できる」喜びを生徒により多く味合わせる。	てどのように声掛けをしたらいいのか判断に迷う場面がある。「もう中学生」「まだ中学生」としてどこまで信頼すべきか考えていきたい。 〇人数が少ない中で9年間生活するのでみんな仲良くなれてしまっている。勉強においてはいい意味での競争心も必要だと感じる。	
3	「現状」 ・ 不登校生徒(長期欠席生徒)の在籍比率が高い。 ・ 経済的理由や、ヤングケアラー、片親等の家庭的な課題を抱える生徒が多い。 ・ 家庭的な愛情不足と考えられる生徒が多く、全校的に自己肯定感が低い。 「課題」 ・ 関係諸機関との連携の充実 ・ 生徒一人ひとりに対応した教育相談体制の充実	不登校生徒比率 の減少	教育部会の定期的 体的な支援策の検 ・SC, SSW, さ とした教育相談体 ・新たな体験的学習	わやか相談員を中心	・関係諸機関を含め、つながりを持たたい長期欠席者を5%以下にする。 ・地域と連携した取り組みを2つ以上領施する。 ・不登校生徒の減少(R3 30名)	相談部会25回開催し、 指導法の検討をすること 定期的に開催していく。 ・不登校率は0.5%、欠席 ったが、長期欠席者数は 況に寄り添い、着実に改	情報共有を図るとともにができた。3学期以降もができた。3学期以降も率は0.3%の改善にとどまは半減した。生徒個々の状で善できたと考える。結果ンケートにおける元気度		●引き続き生徒個々の状況に寄り添い、関係機関とも連携しながら組織的に対応し、不登校率を減少させていくとともに、多様な学びの形を模索していく。	○地域の清掃活動については、 とてもいい活動であると考え る。何らかの事情で登校でき ない生徒ほど、地域の行事に 参加して活躍する場面を見た ことがある。そうゆう場面を 増やしてほしい。 ○クリーン活動等を通して勉強	
	「できた」「分かった」等の自己肯定感を育む取り組みの充実	関係諸機関との 連携の充実	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	ス会議や関係諸機関 家庭支援、保護者支 ・	・保護者会において家庭支援の実際にいての講話(講座)を1回以上実施	諸機関(児童相談所、医療 連携するとともに定期	施できなかったが、関係 療機関、教育相談室等)と 的にケース会議等も実施 もに連携協力した指導体	В	●保護者会等での講座実施にむけて出 席率の向上策を検討する。(実施時 期、実施方法、内容等)	以外の活動で、一人ひとりが 輝ける場面を設定して、保護 者も参加することでより良い 結果が出るのではないか。	
	「現状」 ・学校評価によると職員、保護者共に学校からの情報発信がやや不足していると感じている。 ・コロナ禍もあり、地域と連携した取り組みが少なくなっている。 「課題」 ・保護者、地域への情報発信・収集の充実 ・地域と連携した取り組みの拡充	情報発信・収集	提言」欄を設置し が何時でも意見を る。 ・学年通信、学級通	に「学校への意見・ 、保護者や地域の方 述べられるようにす 信等の意義・目的、 いて研修資料を配付	・保護者アンケートにおいて学校の情報 発信の項目の否定的意見の2%減少 (R3 8%) ・1学期中に資料配付	最 学校評価において「学会」	3 100%となり、目標 こも地域の方からお褒	A	●引き続き「学校の情報発信」を増やし、地域とともに歩むコミュニティ・スクールを推進するため学校運営協議会での熟議を経て地域の一員として積極的に活動できる生徒を育成する。	○未来くるワーク(職場体験学習)などで地域とのつながりを増やし連携を深めてほしい。	
5	・ 心吹 C 座1房 し に 取り 組 みり 仏 兀	地域連携	し、学校活動の紹 業を行う。 ・ボランティアを	で地域行事等に参加 介や地域との協働作 募り、地域での活動 等)を行うことにより	・生徒会本部による地域施設へのプランター設置と活動紹介の掲示を2施設し上で行う。 ・学区内清掃または公園緑地協会等と近携した公園内花壇整備を1回以上行う。	以 4 か所に花のプランタ 交流を図るとともにき 介することができた。 ●清掃活動については、	ーを設置し、地域との 学校の取組や活動を紹 公園緑地協会等と連 値できるように準備作	Λ	●引き続き花のプランター設置を進めるとともに、関係機関と連携した清掃活動を実施する。	○地域への情報発信の取り組み は素晴らしいと思います。学 校で校則等を変更した時に分 かりやすいし、何かおかしい と感じた時に地域からも連絡 がしやすい。	
7	「現状」 ・学校評価アンケートでは、保護者は進路指導の充実において否定的な意見がある。(R3 13%)反対に生徒は肯定的な意見を持っている。(R3 100%)「課題」 ・保護者を巻き込んだ進路指導・キャリア教育の充実 ・保護者への啓発の取り組みの拡充 ・進路指導経験の少ない職員の資質向上	進路指導 ・キャリア教育 0JT の実践	のキャリア教育の ・進路保護者会にお はない「生き方指 演会を実施する。 ・進路指導主事及び た組織的な進路指	いて進路選択だけで 導」を目的とした講 学年主任を中心とし 導と並行し、校内研 てキャリア教育的な	・学校評価アンケートにおいて、保護での「進路学習・キャリア教育」に対する肯定的評価を3%向上させる。・5年次以下の職員への面談において安なく進路指導・キャリア教育の指導に取り組めたとの回答を80%以上行る。	おいては、「進路指導 項目の肯定的回答は減 ●教職経験5年以下の教 アンケートで授業マネ	・キャリア教育」の 対少してしまった。 対員の「よい授業」の ジメント及び授業ス に度当初より0.3ポイー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	В	●「進路指導・キャリア教育」だけでなく様々な学校の取組みを丁寧に保護者・生徒に説明する機会を設定する。 ●引き続き若手教員の育成に向けて、のJT チームを編成するとともに、教育委員会等とも連携し、計画的に研修を進める。	○コロナ渦で学校に行って授業を直接見る機会が少なかったが、学校評価の、「熱心に授業に取り組んでいる」という項目のよい評価が高いことから日々集中できる授業が行われていると考える。今後も子どもたちのための授業をしてほしい。	